

# 人生設計の入口レポート

～制度活用と優先順位の整理～

## 今回のレポートで使用した前提条件

確定申告の内容に基づいて作成

ご家族構成	夫婦、子ども2人
課税される所得金額の目安	5,000,000 円
<b>年間手残り改善効果 (制度活用による差)</b>	<b>約 282,827 円</b>
恒常改善分	約 282,827 円
住宅ローン控除分	約 200,000 円
住宅ローン控除の残り適用年数 (今年を含む)	5 年
シミュレーション期間	40 歳 ~ 65 歳まで継続

### 【まずはここからご確認ください】

本レポートは、2025年分のデータをもとに、現在地と優先順位を整理するための入口資料です。

「現在の状況では、何を優先すべきか」を把握する入口としてご活用ください。

より具体的な全体設計をご希望の場合は、**年次表付きライフプラン設計**や**事業キャッシュフロー個別設計**へ進めます。

※ iDeCo掛金は制度フル活用の上限額で試算しています。生活防衛資金を確保したうえでの投資配分は、詳細設計時に確認したい点です。

## 💡 現在地の確認と「実行 / 不実行」の将来差

ご提示データをもとに、制度活用を「実行した場合」と「未実行の場合」で比較した概算です。

まずは差額と優先順位の把握にご活用ください。実際の適用額や判断は、住民税・家族構成・資産状況等で変わる場合があります。

対策内容	① 税負担軽減効果の目安 (年間概算)	② 返礼品等還元価値の目安 (自己負担2,000円考慮後)	制度活用による差の目安
A: ふるさと納税を中心に検討した場合 (手元の税負担軽減を優先)	-	41,500 円	41,500 円
B: iDeCoとふるさと納税を併せて検討した場合 (老後への仕送りを並行)	248,227 円	34,600 円	282,827 円

### 02 ふるさと納税 限度額の試算

返礼品等の経済価値

寄付上限額の目安 ~~145,000円~~ **122,000 円**返礼品等の実質価値 **36,600 円**

- ※ 上記は自己負担2,000円を踏まえた寄付上限の目安です。
- ※ iDeCo併用時は課税所得が下がるため、寄付上限の目安は単独時より下がります。
- ※ 実際の限度額は住宅ローン控除や医療費控除等で変動します。

### 02 iDeCo 税負担軽減効果の試算 (目安)

税負担軽減への影響

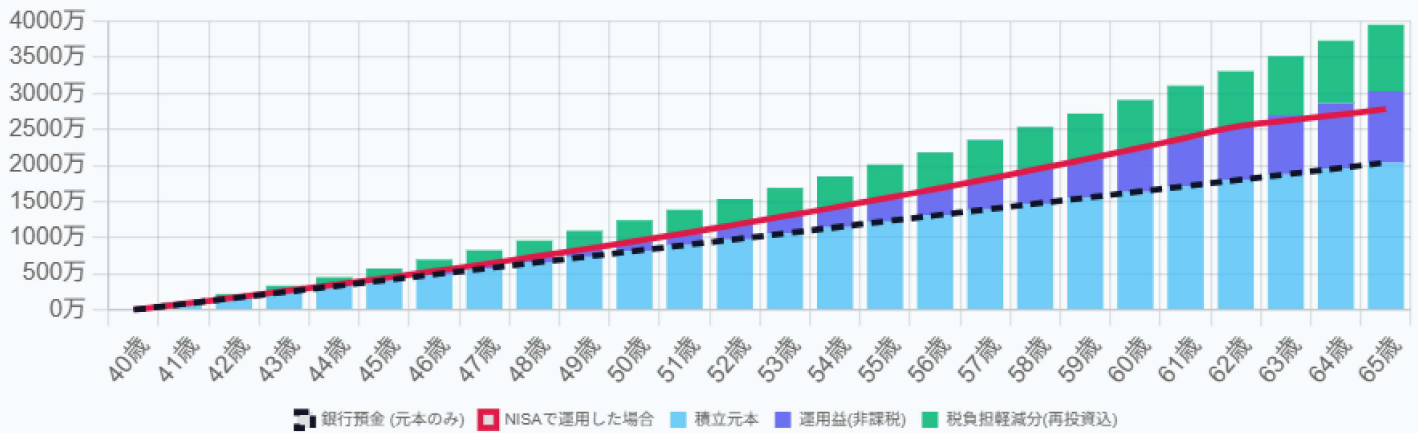
月額積立の配分 iDeCo: 68,000 円

適用税率目安 (所得税+住民税) 30.4%

年間軽減額の目安 **248,227 円**

- ※ 現在の所得水準と税率を前提にした年間目安です。
- ※ 実際の軽減額は他控除との兼ね合いで変動します。

生活防衛資金を確保したうえで、投資配分や積立額の調整は詳細設計時に確認します。



このページでは、制度活用を続けた場合の将来イメージを参考として整理しています。

運用利回り・拠出継続年数・家計状況・制度改正等により結果は変動します。

iDeCoによる税負担軽減効果は住宅ローン控除の影響を受けるため、今年の即効分と恒常分が一致しない場合があります。

具体的な配分は、家計収支や手元資金を踏まえて詳細設計時に確認します。

#### 資産配分の考え方（例）

##### バランス型（3.0%）

ご本人の年齢、手元資金、価格変動への許容度に応じて、元本重視・バランス型・運用重視などの考え方があります。本レポートでは、制度活用を踏まえた一例を表示しています。

65歳時点の予想資産額

**39,554,463 円**

(銀行預金比 +19,154,463 円)

- 積立元本: 20,400,000 円
- 税負担軽減分(再投資込): 9,225,931 円
- 運用益(非課税): 9,928,531 円

※NISAの積立は生涯投資枠（180万円）に達した時点で自動停止し、その後は運用のみ継続する前提で計算しています。

## 優先順位の整理と次の一手

本ページは、最終判断を代行するものではなく、現時点の前提に基づいて「どこから整理すると判断しやすいか」をまとめたものです。

### ■ 現時点で優先して確認したいこと

- 生活防衛資金が十分か
- 使いやすい制度から順に整理できるか
- 今後のイベント支出と制度活用が両立するか

### ■ この先は個別相談でまとめて整理できます

- 預貯金と投資資産の配分
- iDeCo、ふるさと納税、NISAの優先順位
- 教育費、住宅、老後資金のバランス
- 年次表を使った将来推移の確認
- 必要に応じた事業キャッシュフローとの接続

### ■ まずのご相談例

- 自分の家計では何を優先すべきか知りたい
- 制度は分かったが、配分をどう決めるか迷っている
- 年次表まで含めて全体像を整理したい

### 必要に応じて詳細設計へ

本資料は検討順を整理するための入口資料です。

より具体的な配分確認や年次推移の把握が必要な場合は、**年次表付きライフプラン設計**や**事業キャッシュフロー個別設計**へ進みます。

本資料は、検討順を整理するための入口資料です。

記載内容は、提供いただいた情報に基づくシミュレーションおよび整理であり、将来の結果を保証するものではありません。

最終的な判断は、ご本人の事情や価値観を踏まえて行う必要があります。

T.K. Asset & Vision Co.